

## 編 集 後 記

尾籠な話題だが今回は「ウンチ比較論」から始める。ウオッシュレット・トイレが、意外にも欧米では売り込みに苦戦しているという。いや米国では殆ど売れないとも聞く。その理由は糞便性状の差異である。穀類を主食とする日本人の便は軟便であり、排便後、肛門を洗浄し乾燥させることに意味がある。半面、肉類を主とする食事が多い欧米人の場合、便はコロコロとした硬便であり、用便後、紙で拭くだけで足りる。このことで思い出したのは筆者自身の体験である。99年秋、神戸で国際学会を主宰したとき、米国 San Diego に本社を置く医療機器メーカーの社長さん夫妻が来日した。大の親日家である彼等が到着した翌朝、奥さんから質問を受けた。「トイレの便器に記されたシャワーのようなマークは何か?」と。筆者は、それはウオッシュレット機能のサインと答え、その使い方を説明した。すると「ビデとどう違うの?」という問いが続いた。わが国の事情に明るい知日家でさえ、この程度の理解である。

この「ウンチ文化」の差異は、実は、論文の書き方にも現れている。「ウンチ」の場合とうらはらに、一般に、欧米研究者の論文は、しつこいというか、粘っこいというか、自説を堂々と展開し、これでもか、これでもかという書き方で畳み掛けてくる。かつて、米国系医学誌のレフェリーを務めた体験からも、投稿論文の査読は一苦勞であった。これに比し、邦人論文の多くは淡泊とさえ感じるときがある。本誌の場合、大多数の論文は依頼原稿である。執筆という迷惑なご苦勞を敢えて著者にお願ひする場合が多い。しかしなかには、もう少ししっかりと書き込んで下さったらと思うことがある。読者が求めるのは、研究の先端に関する最新の情報であるとともに、その治療法を日常の診療に活用するためのヒントでもある。本誌の長所は、上記のような寄稿依頼の経緯から、刷り上がり紙数の制限に比較的寛大なことである。意を尽した十二分な書き込みをお願いしたい。

〔高橋 英世〕

## 編 集 委 員 (50音順 \*印委員長)

杉 藤 徹 志*	池 山 淳	粥 川 裕 平
高 橋 英 世	松 本 美 富 士	山 本 武 司

明日の臨床

Vol. 18 No. 1

2006年 6月25日発行

編 集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎ (052) 832-1345

制 作 (株)東海共同印刷

頒価 1,000円・発行部数 7,000部